

第76回国民体育大会冬季大会
スケート競技会・アイスホッケー競技会

我 ら か く 戦 う

＜スケート競技会・アイスホッケー競技

期 日 令和3年1月27日(水)～31日(日)

会 場 愛知県・岐阜県

公益財団法人 北海道スポーツ協会

競技名	種別	評価	予想順位・得点	戦いの展望	有望選手・チーム	特記事項
スピードスケート	成年男子	5	総合1位・得点40点	福井県、長野県、三重県との争いとなる予想	中村 隼人（おおさかスポーツ） 中村 奨太（楡口シネットジャパン） 大和田 司（楡北海道ちぬやファーム） 藤野 裕人（ジョイフィット）	中村隼人・中村奨太…兄弟
	成年女子	4	総合1位・得点35点	有望な北海道出身選手が他県で選出され、苦しい状況であるが、取りこぼしを最小限に抑えたい。	宇佐見 鈴音（日本体育大学4年） 桑原 僚己（大東文化大学3年） 林 海玖（大東文化大学2年）	本年度各種目のタイムランキング上位者を起用した。
	少年男子	5	総合1位・得点75点	屋外リンクでの開催と普段行わないシングルトラックレースとなるため厳しい戦いが予想されるが、ジュニア選手のトップクラブが集まっているため、学校の枠を越えて北海道のために力を合わせて頑張りたい。	山本 悠乃（白樺学園高校3年）ユースオリンピック500m優勝	山本 悠乃…3年連続出場
	少年女子	5	総合1位・得点50点	普段行わないシングルトラックレースとなるため厳しい戦いが予想されるが、山形県、長野県代表のジュニアのトップクラスが集まっているため、学校の枠を越えて北海道のために力を合わせて頑張りたい。	堀川 桃香（白樺学園高校2年）	堀川 桃香…成年男子の堀川 翼の妹
ショートトラック	成年男子	2	団体5位・得点4点	北海道は全国的にみてもショートトラックの選手が少ないので状況は厳しいが、成年女子は過去2年3000mリレーで得点しているため今年も継続して得点を取りたい。		
	成年女子	2				
	少年男子	2		北海道は全国的にみてもショートトラックの選手が少ない状況にあるが、前年度は男女ともに予選通過の目標を果たしている。今年度は更に上のステージである準々決勝通過を期待したい。		
	少年女子	2				
フィギュアスケート	成年男子	3	団体8位	2人がミスのない演技をし、団体8位入賞を目指す。		長谷川 一輝…東日本選手権大会6位、全日本選手権大会20位 坪井 聖弥…東日本選手権大会14位
	成年女子	3	団体8位	来年度の団体出場枠を確保するため、団体8位入賞を目指す。		海津 あすか…2020シーズン東日本選手権出場、2019シーズンインターハイ19位、国体20位 加藤 花玲…2020シーズン東日本選手権出場、2019シーズンインターハイ22位、国体14位 海津 あすか、加藤 花玲ともに2年連続2回目の国体出場
	少年男子	2		目標は団体入賞とし直前合宿を行い、コンディションの調整を行う。前年度、人数が揃わず出場が出来なかったカテゴリーで、初出場となる岩野 颯太は高い目標を掲げ、選手のモチベーションは高い。		岩野 颯太…インターハイ33位
	少年女子	3	団体8位	2人とも初出場のため来年度出場枠獲得のため団体8位入賞を目指す。		大関 凜花…3年連続インターハイ出場 長岡 柚奈…2年連続全国中学出場 (1/9～全道中学で3年連続の出場を目指している)
アイスホッケー	成年男子	5	団体1位・得点40点	今年のチーム構成は、全体的に若手が中心のチーム構成となっています。北海道の戦略としては、前年度同様、大量点で勝つのではなくしっかりと守って勝つような戦い方を考えて選手選考を行ってきています。選手全員、経験豊富であり、このチームで何を行うべきか理解していることが大きな強みになっている。全体的にFW/DF全ての選手が攻守の運動量重視をしたことでスピード感のあるチームになった。	佐藤 光（御影クラブ） 岩槻 翔悟（日本製鉄室蘭） 山口 連（日本製鉄室蘭） 村上 亮（日本製鉄室蘭） 青山 大基（明治大学） 小原 卓朗（DYNAX） 今野 友尋（DYNAX）	村上 亮…6年連続出場
	少年男子	5	団体1位	油断することなく、選手には自分のベストを尽くしてもらいたい。そうすれば必ず優勝できると信じている。	アシアリーグで活躍した選手及び現在J-northでも活躍中で、個人スキルが攻守ともに優れた選手及び大学生のDFで、中でもトップクラスのスキルを持っている選手。	今季は多くの大会がコロナ禍で中止となり、全国規模の大会が実施されていない。インターハイは団体の直前に実施予定。 北海道少年は17連覇中なので是非連覇記録を伸ばしたい。